

第2号様式(第3関係)

<p>視察等個別部分報告書</p>	<p>作成者氏名</p>	<p>鈴木宗貴</p>
<p>1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）</p>		
<p>① オープンデータの活用について ② 女性職員活躍支援について ③ 熊本地震後における防災・災害対策等の取り組みについて ④ AIによる働き方改革について</p>		
<p>2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）</p>		
<p>① オープンデータ化の取り組みは本市を始めとして既に行われているが、オープンデータ化の簡略化と、データの活用は課題となっている。宇部市では平成27年度に公募による「アイディア・アプリコンテスト」を開催し、活用アイディアを募集。翌年度からはソフト開発を基本としたアプリコンテストに進化させ、今年度第4回を迎える。利便性を高めるアプリが高校生や大学生からの応募により形になってきており、非常に有効な取り組みだと感じた。</p> <p>また、努力義務であるが「宇部市官民データ活用推進計画」を策定。情報通信技術は日々進歩していくため、スモールスタートで、後付けしていくことが重要であり、また、オープンデータは比較の観点から近隣自治体との関係性が重要であることを認識した。</p> <p>視察当日、宇部市が中心となり山口県内7市町による「やまぐち自治体クラウド基幹系業務システムの共同利用に関する協定締結式」が同時刻に開催されており、自治体クラウドが必須になっている状況から、経費や業務量の削減と住民サービスの向上等を図る上で、大変に参考となった。</p> <p>② 女性職員の活躍とワークライフバランス推進の先進的取り組みを行っている北九州市では、宇部市同様、市長の強いリーダーシップの下で、女性活躍推進本部の設置と「女性活躍推進アクションプラン」の策定、「イクボス」の養成（平成27年4月、自治体では初の全管理職615名がイクボス宣言）、受験率向上のための昇任試験制度の変更など多くの取り組みを行っている。管理職へのスキルアップのた</p>		

め、財政や企画部門などにも積極的に登用している。

また、審議会などにおいても女性委員の比率50%が全てで達成されている。

モチベーション向上のため、上司の働きかけが重要であるとともに、女性職員がお手本となる女性管理職との意見交換の機会を増やしていくことの必要性を強く感じた。

③地震は来ないということを企業誘致のPR項目にしていた熊本市における震災対応は、その経験から非常に学ぶべきものが多くあった。避難においては、マイカーにより避難所である学校の校庭一杯に来て、避難生活を送ったとのことで、本市においてもマイカー避難者への対応マニュアルの追加の必要性を強く感じた。物資やボランティアの受け入れなどでは非常に混乱しており、「受援計画」の必要性は一般質問でも問うているが、熊本市では震災後に仙台市を参考に策定しているが、本市でも急務だと改めて感じた。

また、情報通信においては、普段使われているLINEが非常に有効であったことと、市長自らが発信するツイッターに効果があったとのことで、本市においても、LINEの活用について調査が必要だと感じた。

④熊本地震の際に、情報通信分野で支援を行った日本マイクロソフトと連携し、クラウドシステム用のソフト「Office 365」をフル活用した働き方改革を市職員と教職員、合計1万2千人分のアカウントを取得し平成31年度より運用を始める。予算は5年間のライセンス料等として47億円になる。働き方改革は実際に運用が始まり、様々な効果や課題が見えてくるが、既に、AIについては、各所管課において、保育園の振り分けや、連携するNTTの車両にカメラを搭載しての道路管理などにおいて、実証実験が始まっており、保育園においては、既にソフトの実証比較が行われている。

また、広く導入されている既存システムを使用することにより、導入や更新経費を抑えることを図っている。

今回視察した、3市に共通することであるが、地方においては、人

第2号様式(第3関係)

口減少による働き手の不足、財政の縮小が、最大の課題となっており、その為のオープンデータ活用や、女性職員活躍、AIの活用、クラウドシステムの構築などが図られている。本市においても危機感をもって対応しなければならないと強く感じた。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

○宇部市、北九州市ともに「自治体SDGs」を政策の最前面に出しており、本市においても、早期の取り組みが課題である。

第2号様式（第3関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	平野 充
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
<p>【宇部市】 「オープンデータの活用について」 宇部市：総合戦略局 ICT・地域イノベーション推進グループ</p> <p>【北九州市】 「女性職員活躍支援について」 北九州市：総務局女性の輝く社会推進女性活躍推進課</p> <p style="text-align: right;">平成30年10月29・30日</p>		
2 実施結果に対する所感，意見等 (質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等)		
<p>宇部市は大学や高専などの機関（学生）と連携し、若者の熱や知恵などを糾合し、ICTを活用した行政と市民の協働に取り組む活動に力を入れていた。それらは、市内教育機関（学校）も認識されていた。</p> <p>原動力は強い市長の思いであることが分かった。職員は皆、ICT等に意識をもち、今後、更に人口が減少し人手不足を補うICT技術等を通し宇部市の未来（将来）を考えられていた。</p> <p>宇部市では、後期実行計画の5本柱の一つにイノベーションICTを掲げている。</p> <p>極力オープンデータ化し、市民とともに地域課題に取り組む姿の具体例として、アイデアアプリコンテストを実施していた。中でも、障害者から発案された「多目的トイレ発検索」は素晴らしいと感じた。</p> <p>総務省発信の市町村としては努力義務となっている官民データ活用推進計画を市としてすでに策定されていた。</p> <p>宇部市はオープンデータの活用を通して、近隣市と同時に進めていくことが望ましいということを実践の中で気付かれていた。</p> <p>説明を受け私が感じたことは、「若者たちは理解しやすいICT活用も高齢者はとっつきにくいという一面があるように思うが、アプリ開発によって高齢者世代がより便利に、また得をするといった感覚を得る場合、今よりもたやすく理解の輪が広がり、ひいては人手不足も補っていける一つの方法」だと感じた。自分もアプリを作ってみたいと思うほど大変有意義な勉強となった。</p>		

北九州市の女性職員の活躍支援については、本格的に取り組み始めて10年が経過した現状を勉強させていただいた。

北九州市でも、市長の思いが強く反映されていた。女性職員が活躍（管理職登用）できるためのプロジェクトチームが編成され、中身のある議論が毎月行われ、次々と課題克服に取り組みが進められてきたことが分かった。

人事部人材育成・女性活躍推進課を平成20年に立ち上げ、ともかく、女性の働きやすさを求めた意識改革を全庁あげて取り組みをスタートさせていた。

リーダー改革に向けた「部下から上司を評価する」取り組み、また、「イクボスを養成するための市長と職員の対談」を組織内報にして全職員に発信するなど、平成19年に市長が変わってから、一気に女性職員の活躍への取り組みが進んできていた。

北九州市としては、本気で10年取り組んできた中でやっとここまで来たとのことで、いよいよこれからが本当の成果が出てくる時代だと意識されていた。

本格的に取り組んで10年。数字の上でも顕著に現れ始めていた。特に、女性職員の20代後半から30代にかけては、職員としての力量も一番伸びる時期だとし、あえて重要なセクションも経験させながら支え、女性職員の活躍を考え実行されていた。将来、上層部の管理職へ成長させようとの考えからである。

こうした、徹して取り組まれる姿勢がとにかく素晴らしいと感じた。連携する女性のワークカフェ（ハローワーク等）も素晴らしい環境が整えられていた。

その他、SDGsの取り組みも環境部門を中心に素晴らしく、国内初のモデル都市を築かれていた。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

特になし

第2号様式 (第3関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大河 巳渡子
1 視察 (研修・視察研修) の実施名称 (テーマ)		
<p>I. オープンデータの活用について (山口県宇部市・10/29)</p> <p>II. 女性職員活躍支援について (福岡県北九州市・10/30)</p> <p>III. 熊本地震後における防災・災害対策等の取り組み及び AI による働き方改革について (熊本県熊本市・10/31)</p>		
<p>2 実施結果に対する所感, 意見等</p> <p>(質疑・意見交換した内容, 今後の市政に生かすべき点等)</p>		
<p>宇部市、北九州市、熊本市について総務委員会として3日間に渡る行政視察を行った。視察を通して、今後どう市政に生かしていくのか、その課題や活用すべき点等感想も含め以下に意見等を記載する。</p> <p>I. オープンデータの活用について (宇部市)</p> <p>宇部市は、オープンデータの活用の先進市である。調布市では、オープンデータについて明確な方針や計画を持っていない。唯一オープンデータの取り組みを通じた地域情報化の推進として、市民の手による地域情報化への取り組みがある。近い将来、行政運営に AI の導入は不可欠。その前提条件がオープンデータへの取り組みと認識している。そこで、宇部市における「オープンデータ」という情報化政策に対するビジョン、計画行政の中の位置づけ、活用するに当たっての職員への対応、調布市のまちづくりの基本に置いている参加と協働の視点からの、市民との協働への取り組みはどうか等の課題認識を持って視察に臨んだ。</p> <p>総合戦略局 ICT・地域イノベーション推進グループのチーフ、主任の方から具体的な話を伺い質疑応答した中で、調布市の施策に反映すべき点について以下6点を記載し、その後に質疑を通して施策に反映すべきと考えた際のやり取りや、学んだ感想等記す。</p> <p>○持続可能な市政運営には業務の ICT 化に対するビジョンを持つこと、そのためには強力なリーダーシップが欠かせない事。</p>		

○職員にも考え方の根拠を示す意味からも推進計画を策定すること。

後期基本計画に間に合わないので、まず方針を明確にする。

○方針を実現可能にするため、後期基本計画に考え方を盛り込む。

○ICT化に向けた職員研修を推進すること。

○データ化を通して、自ら考え行動する職員の育成に努めること。

○行政情報をオープンデータ化し市民と情報共有を図り、地域課題を市民・民間含め参加と協働で解決すべく、オープンデータの利活用を推進する。

当初持っていた問題意識から、「総合戦略局など、行政として創造的に努力され情報化に対して推進計画も策定しているが、市長の姿勢が大事だったのではと認識するが、どのように進められたのか。」といった趣旨の質問をした際に、「市長自らが持続可能な行政運営には業務のICT化を1丁目1番地とし、職員にビジョンを示し、リーダーシップを発揮している。データ分析しないと政策立案できない。行政が少子化等の社会には、今のままでは対応できない。紙の時代は終わった。市民の力を借りないとまちづくりはやっていけない。また、これからの政策立案に必要なIT化に向けた職員研修が必要。また、自治体クラウド化のリーダーシップに関しては、宇部市としては一定規模が必要と判断、広域行政という視点から近隣7市町に呼びかけ、視察当日に「やまぐち自治体クラウド協議会」として国保等基幹系業務システムの共同利用に関する協定を結ぶに至るという趣旨のやり取りがあった。

市町村では努力義務になっている「官民データ活用推進計画」を宇部市では9月に策定。当初は年度内を目指したが、総務省へのオープンデータ化事業を提案するに当たり活用推進計画が前提条件にあった事もあって前倒しで策定したとのこと。庁内でオープンデータ化を他課にも納得してもらうために計画が必要、根拠としても計画の位置づけがあることでスムーズに施策展開できているとの事だった。調布市でも後期基本計画策定の今、オープンデータ化が30年代を見通した

計画に欠かせない施策。このテーマを行政に働きかける必要性を痛感させるやり取りだった。

また、首長が市の将来を展望して、これからの行政運営に欠かせないものは何か職員に明確に示した上で、推進するに当たっては強力なトップダウンが必要だと痛感した。宇部市での行政部局の呼称からも、市長が改革の主旨を明確にして、職員に理解させた上で組織化していく手腕。そして広域行政におけるクラウド化についても、自らビジョンを示して SDGs も含め施策を地球規模で俯瞰し行動している。何故その施策が必要か、戦略的に施策が展開されている事も職員の発言の端々からも認識できた。調布市では情報化への関心が薄く、市長の理解を得るのは難しいが、企画部署に行政の重要課題として、取り組むよう訴えなければと強く認識した。

宇部市は約 165,000 人と地方都市とすれば人口が多い。しかし、今後の人口減少への強い危機感が持続可能な行政運営とは何か、真剣に汗をかいている。新任管理職はデータ化についてポイントポイントで研修が入る。必ず仕事に IT、ICT、IOT の活用を入れ、結果多様な働き方改革につながるようにと言われているとのこと。部長職会議でも同様、事務職は AI の話題が中心で、毎日、新聞雑誌が配られているとのこと。講師は庁内の職員中心。外部に情報発信しているので企業の最新情報も入り、次世代通信技術のことでパートナーシップへの誘いもあるという。地域課題解決にオープンデータアプリコンテスト開催を進めているが、この事業を地域人材育成と位置付けている。参加する学生には学校では学べない社会的課題の学習機会の場になり、コンテストにトライしていた人材が地域に戻る、或いはデータを活用して宇部市のために働く人が輩出されるよう努力しているとの事。様々な説明を聞きながら、自ら学びながら働く姿勢こそ、今後の行政運営に欠かせないのではと気づかされた。実際に行政が「気づき」のできる組織として機能することは、難しいように思う。しかし、宇部市では持続可能な地域社会づくりに向けて、自ら、考え、行動する職員を

輩出、市民とも協働する好事例として多くを学ぶことができた。上記した項目を含め、調布市の行政運営に生かすべく提案していきたい。

Ⅱ. 女性職員活躍支援について (北九州市)

北九州市は、女性政策の先進市である。調布市でも女性政策について様々な施策を展開している。長友市長自身、初めての立候補の公約には女性助役を掲げていたが、5期目でも実現せず、女性政策が行政運営の重要課題と位置付けているとは言い難い。現在、政府では女性活躍推進法、政治分野における男女共同参画推進法など矢継ぎ早に法制化が続いている。少子高齢化時代にあっては女性政策が重要なキーワードであることは様々な行政課題を見ても明らかだ。私自身、議会でも再三女性・女性職員の活躍支援を取り上げてきた。今回、北九州市を視察先として提案したが、北九州市では公約の女性副市長を当選後すぐに配置し、その後一貫して、女性活躍推進に取り組んできた。OECDにおいてはSDGsモデル都市として世界で6都市を選定している。北九州市は日本で唯一選定され、政府のSDGs未来都市にも選定されている。特にジェンダー平等への取り組みが高く評価されている。私はジェンダー平等の視点を持ちながら、女性・女性職員活躍推進を推進している首長のリーダーシップと、具体的な組織体制・アクションプラン等を委員会メンバーで学び、情報共有することで、今後の調布市における女性管理職あるいは審議会等の女性比率アップ等含め、女性・女性職員活躍に対して、調布市が目指すべき女性政策について推進できるような学びの場にしたいと視察に臨んだ。

北九州市総務局女性の輝く社会推進室長、課長を始めとした担当者からの具体的な説明、また施設見学を通して、調布市の施策に反映すべき点は様々にあった。が、今、市が行うべき優先度の高い施策は何か考えた結果、以下の5点を記載する。また質疑を通して施策に反映すべきと考えた際のやり取りや、諸々学んだ感想等続けて記載する。

○女性活躍の推進に向け、市長を本部長とした女性活躍推進本部の設

置と具体化するために現在の所管の充実を図るものとする。

○ジェンダー平等の視点を持ち、現在の女性活躍推進施策を見直し、達成年度を明確にしたアクションプランを検討、その際には意思決定レベルへの任用が重要であることを明記する。

○プランに組織風土改革・男女間の育成の格差是正を加味すること

○子育てを機会格差にしない人事制度への取り組みを行うこと。

○ワークライフバランスへの更なる取り組み

まずは説明資料が 70 ページを超えるものであったことに圧倒された。市長公約に女性活躍があったわけだが、実際の施策展開した年度が現市長就任の平成 19 年 2 月で 10 月には初の女性副市長就任（厚労省職業家庭両立課長）と知る。その際に現在の流れの方向ができたという。公約の本気度が伝わってきた話である。翌 2 月に「女性活躍推進！本部」が設置され、市長以下総勢 21 名で構成、ワーキンググループを全 6 回開催し人事部人材育成・女性活躍推進課設置、職員アンケート実施、各種研修を管理職、男性職員向けも行うなどする中、女性活躍推進アクションプランを策定したという。市長就任から一年半で推進したことからも公約にかける意気込みが伝わってきた。3 期目公約では市の審議会の女性委員比率を 3 年以内に 50% に引き上げること（達成済み）。女性の就業・キャリアアップ・再就職支援をトータルで支援するワンストップサポートセンター新設（ウーマンワークカフェ北九州として既にオープン）、等々様々な施策を公約に掲げ実現してきている。新規採用職員の男女比の推移を見ると、26 年には男女比が逆転しているという。人口減少し、職員採用も難しくなってくる中、女性職員のキャリアアップが求められる必然性も理解できた。質疑応答の中で、当選から年月が経ってきているが市長のモチベーションが下がっていないが、継続して取り組んでいける理由は何か質問したところ、「市長が就任した際には市役所はかなり古い体質で、何とかしなければと思ったとのでは、駆り立てさせている要因は分からないが市長に先見の明があったと認識している」との事。課と

しては男女共同参画推進課と女性活躍推進課の2課があった。「政令都市でも一番人口減少が激しい中で、若い人や女性を引き込まなければという危機感がある。女性が働きやすいまちにすれば、結果的に皆が働きやすいまちになると一生懸命取り組んでいる。その一環でSDGsや女性政策が地方創生につながると考えている自治体が多いのでは」といった話に地方都市の現状を強く認識させられた。女性部長は、局長級をいうので3名とのこと。官房系では企画調整局の総務部長は女性、総務局総務課長も女性、人事部長も初めて女性になったとの事。注目すべきは、女性団体が男女共同参画啓発事業に係わり、地域に根差した活動を推進していることで段々に性別役割分担意識が改善してきているとの事。調布市の女性団体の活動支援も含め組織化を支援して地域の啓発事業に繋がるような努力も市の課題ではないか認識できた。またいくら下位の職層から提案しても、トップに意識がないと変わらない。トップの意識があることで、女性もそうだね、という感じになったという話も聴けた。市における女性政策の醸成は、やはりトップの女性政策が持続可能な社会に推進すべき重要政策だという信念こそが市の女性政策を推進していく最大のエネルギーになることは間違いないと確信できた視察であった。調布市でもSDGsの目標のひとつであるジェンダー平等への取り組みとして女性・女性職員推進へ実効性のある施策展開を求めていきたい。

Ⅲ.熊本地震後における防災・災害対策等の取り組み及びAIによる働き方改革について（熊本市）

熊本市では熊本地震による甚大な被害を受け、未だに熊本城を始め再建の途上である。どの自治体にあっても、いつ災害に見舞われるかわからない時代にあっては、実際に被災し、その後防災・災害対策に取り組んでいる市に学び、具体的にわが市の防災・災害対策に役立てるべく臨んだ。また、AIによる働き方改革に取り組んでいる先進市でもあることから、調布市でも今後取り入れようとしているAIによる

働き方改革とは実際には、何を目指しどのように取り組まれているのか視察して、調布市としての方向性を探りたいと視察に臨んだ。

以下 2 項目の施策であったので、項目ごとに調布市として参考にして取り組むべき施策について記載し、また質疑を通して施策に反映すべきと考えた際のやり取りや、諸々学んだ感想等続けて記載する。

1. 熊本地震後における防災

○現在、推進しているコミュニティづくりを、被災した際の一人ひとりの暮らしを支えるプロジェクトとして再度位置づけ、具体的なフォローアップすべき項目を想定して支援していく。（ワークライフバランスを推奨し、地域活動に現役世代も係われる支援を検討する）

○防災士養成講座を検討する。

○住まい再建に向けた支援体制をどこまでできるかの検討をする。

○児童生徒の心のケアに対する対応について想定しスクールカウンセラーへの研修項目に加える。

○市内病院との具体的な連携と実際的な訓練を行う事や、広域連携についても検討する。

○上下水道施設の老朽化対策を早める。

○被災時の情報の共有化のための新たな手段を、今から利用し定着を図る。

○災害時の女性の視点からの避難所での在り方の普及を図る。

28 年に起きた震災から 3 年目に入ろうとしている今なお、応急仮設住宅に暮らす市民もいる等、その被害の甚大さに胸が痛むと同時に私たちのまちに起きた時、仮設住居を建てる場所の確保から難しい。恒久的な住まいに転居できるのは阪神淡路大地震後の復興の過程をみても厳しいと言わざるを得ない。何より住まいの確保が一番必要なことは理解するが、一番困難なことでもある。明日起きるかもしれない地震等自然災害は防ぎようがないとすれば、都市部でまず対応すべきはコミュニティづくりではないかと考える。現在のコミュニティ政策では防災訓練が組み込まれている。各地域で災害を想定した計画づく

りも進んでいるが、もう一步踏み込んで被災した際にどうなるのか、そこで暮らすことを想定した訓練や役割の洗い出しも必要と感じた。また、訓練がスムーズに行くためには日頃からのコミュニケーションが大切。現在、自治会での担い手が高齢化している。移動人口が多い市にあっては、若い世代が係わる事が少ない。なかなか難しいことではあるが、ワークライフバランスを推進して働く世代が地域活動に参加できる暮らし方の提案も必要ではないかと感じた。まず現在、市最大の事業所である市役所で進めているワークライフバランスの推奨をもっと広げていくことがひいてはコミュニティづくりにも貢献すると考える。その結果として、若い世代の市民が防災士養成講座に参加できる機会が生まれることもあるのではないか。この資格があることをまず知らせる啓発事業も必要と感じた。質疑の中では、やはりPTAの若いお父さんなどをお願いしたいとの話も出ていた。自治会活動の中に、若い方が参加できる活動の支援も大事。現在、地区協で保育園で朝市を開催しているが、利用している保護者の参加が多い。こういったイベントを重ね顔の見える関係作りの積み上げも大事だと実感した。また、地域在住の職員は大体3名ほど張り付き、避難所開設に携わるとの事。市でもこの点は位置付けて、日頃の防災訓練でも意思の疎通を図り地域住民と協働で運営できる体制づくりが必要ではないか。仮設住宅問題は深刻だが、被災時に対応した支援として公営住宅は難しいとすれば、熊本市では民間賃貸住宅入居支援助成が一律20万、転居費用助成が一律10万円だった。こういった助成金制度の検討は市でもできる支援として検討すべきと考える。被災した体験の心への影響は計り知れない。心のケアにカウンセラーが大事と話を聴いて感じた。市ではカウンセラーの配置はあるが、被災した場合を想定して、どのようなケアの体制が取れるのか検討していく必要がある。市立病院を持たない調布市としては、医師会との連携は欠かせない。現在も防災訓練への参加もあるが、緊急時に向けた訓練や、病院自体が被災することもある事から、広域連携の視点からどうするの

かといった検討は欠かせないと思った。

上下水道、特に上水道は欠かせない。老朽化している今、管の状況等早期に長寿命化を推進していかなければならない。公共施設維持補修計画におけるインフラ整備を再検証しなければと思った。被災時にはフェイクニュースもあると思うが、何より正確な情報発信が必要。熊本市では LINE を職員の情報伝達に活用しているが、市民も普段から活用しているので情報伝達として有効手段との認識だったが、市長はツイッターをしているとの事で、その影響力は絶大のようだ。災害時は HP が正式というが携帯電話を市民がほぼ持っている時代の伝達方法については活用できる手段として位置づけ、日頃から市民とも対話できるツールとして生かすよう提案したい。避難所での女性の視点を生かした支援について質疑した際には、行政指導ではなく、地域で検討していく方向のようだが、調布市では何回か議会でも質問が出ている。避難所での女性への配慮は欠かせない。阪神淡路大震災でも東日本大震災でも、ありえないような女性への人権侵害もある。この場所で性別役割分担を持ち出すと女性は疲弊する。この点について調布市は先進市と言えらると思う。男女共同参画推進課で女性の視点で検討しているが、地域の防災マップや訓練まで、その視点が生かされている訳ではないので、更なる推進を求めたい。いずれにしろ災害復旧には長い時間がかかることを再認識させられた。生活再建の道は厳しい。しかし、熊本市が掲げた一人ひとりの暮らしを支えるプロジェクトという精神を基本に置くことの重要性ははっきり認識できた。一人ひとり暮らしは異なる。その人らしい生活を取り戻せるように市民に寄り添った支援を基本に据えることは住民自治の精神でもある。ここを起点に防災・災害対策を立てるべきという基本を学ぶことができた。しっかりした方向性を持った対策こそ重要と再認識した。

2. AIによる働き方改革について

今回の視察では、当初から各自 ipad を手渡され、その資料を見ながらの説明を受けた。熊本市はもともと日本マイクロソフト社とセキ

ユリティ強化、ライセンス包括契約等ある中、熊本地震の際に、マイクロソフトクラウドを活用したくまもと R ねつとを活用した災害対応をしてきた経緯があり、これの常時活用を決定。災害時対応への感謝状贈呈に行った市長との話から、働き方改革のノウハウや社内実証データを市に提供し、クラウドシステムを活用した「自治体職員・教職員の働き方改革（仮称）」のワークショップを開催しアドバイザーを迎え、導入するクラウドサービス、AI に関する研修会を行うなどサポート、市における復興、見守り、コミュニティづくりをサポートしている。働き方改革においては様々な ICT を利活用している。説明文は難解な用語も多く理解が困難であったが、今後は調布市でも、進めて行くべき AI による働き方改革のための重要ツールだと認識できた。熊本市では改革に取り組む以前からこのシステムに親しんでいた事もあり、スムーズな導入だったと思う。

以下に調布市が AI に取り組む際に参考にすべき項目と考え、記載する。又、質疑を通して施策に反映すべきと考えた際のやり取りや、諸々学んだ感想等その後に続けて記載する。

○何故 AI を導入するのか、将来展望として今後の働き方へのイメージも含めた将来像を明確にした指針を持つ。予算を伴う事業であることから計画にも位置づけること。

○情報化を伴う施策の予算は把握しにくいので、どのような形態で契約し更新するのも含め費用についての的確に見込むこと。

○テレワークを推進する際に、何をイメージして行うのか具体的な事例等も考え段階的に環境整備を行う。

○データ管理に関して、公文書等電子化対応への取り組みを整理して対応する。様々な点を考慮すれば、公文書条例の制定が必要。

○ペーパーレス、Web 会議など働き方が変化する中、AI 利用による職員の労働状況の可視化に繋げ、気づきによる業務改善へつなげる。

宇部市でのデータ活用から、一歩進んだ取り組みとも言えるが、活用するのは人間、分析されたデータから何を読み取るのかが大切。ペ

ーパーレス、或いは移動しないで会議ができる Web 会議など資源の面や移動時間短縮で得たメリットを、市民サービスの何に厚くしていくのかという職員の生産性向上につながる視点を持って働けば、費用対効果という点からも望ましい。やりとりでは、機能を使いこなすための研修の必要性はあまりないとの事。ソフト開発企業の働き方改革につながる ICT の利活用だけあって使いやすいモデルのようだ。システムについては、モバイル、或いはノート、デスクトップと多様な機種を使うこと、また更新は必須だ。場合によっては外勤すると二台持ちをするのかということもある。通常はデスクトップだが民間ではタブレット端末で必要に応じて大きなモニターやキーボードをつけるというが、そういう方向を目指して内部検討中とのこと。机の端末とモバイル端末をどうしていくのかが課題とも話していた。いずれにしろソフトの更新、機種の買い替えなど今後 AI が人に代わって働くという事は費用もかかる。費用が適切なのか内部評価できる人材の育成、あるいはアドバイスを貰える外部コンサルが必要ではないか。提供会社から派遣人材を受け入れることは容易だが、AI 全体を把握する人材育成、或いは採用が急務と認識した。行政は市民の情報を守るのも重要な責務、端末が持参できる時代にセキュリティへの対応も忘れてはならない重要事項だ。いずれにしろ AI に関する活用計画、或いは指針なくして推進するのは難しい。AI を導入しての働き方改革とは何のために、何をを目指すのかを十分検討し、市民に説明し理解を得ることで、AI 導入後の市民との協働をどう進めて行くのかというテーマもあるのではと認識した。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

どの視察項目も調布市の基本的考え方「参加と協働のまちづくり」の視点から市民と情報共有し、それぞれについて何のために推進する事業なのかを明確にすること。また、今後は地球規模で考え計画に位置付けるべきと考えるが、調布市にはないのが課題。国連目標でもある SDGs を後期基本計画に取り込むよう提案していきたい。

視察等個別部分報告書	作成者氏名	榊原 登志子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
<p>1 平成 30 年調布市議会 総務委員会 行政視察</p> <p>(1) 山口県宇部市 「オープンデータの活用について」</p> <p>(2) 北九州市 「女性職員活躍支援について」</p> <p>(3) 熊本県熊本市「熊本地震後における防災・災害対策等の取り組み及び AI による働き方改革について」</p>		
<p>2 実施結果に対する所感，意見等</p> <p>（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）</p> <p>(1) 山口県宇部市 「オープンデータの活用について」</p> <p>・近年におけるデジタルの発展は、「ついていけない」という言葉が出てくるほどの状況である。しかし、高齢者であってもスマホを上手に操作している。もう「ついていけない」とは、言ってもらえない今日である。その今日の中で情報を得ようとすればパソコンをひらく、もしくは、いわゆるスマートフォンなどで調べる。スマートフォンから PC サイトも見られ時間を要することなく膨大な情報を得られる。そのスマホから情報が簡単に得られるようになり，その一つがオープンデータである。その情報を誰もが見られるように作成し提供する作業が必要であるがそのアプリ=ページをつくることを行っている。そのコンテストを開催し素晴らしいページが提供できるように努力をしている。さまざまページがあるがその中の一つとして多目的トイレの検索、ルート案内ができるものがある。これは、発声できない方が多目的トイレを探すことに苦慮したことから考えたようである。このほかに宇部市休日・夜間診療所の経路、所要時間、診療所情報が確認可能でありワンタッチ電話機能付きという急いでいる時には、大変便利なものもある。このようにアイデアにより情報が素早く得られることは、近年において大変、便利である。ラグビーワールドカップや東京 2020 大会にむけたインバウンド事業の一つとして大いに活用され、わがまち調布の隅々まで、ますます活性化するアプリの作成を行っていかねばならない。そしてこのアプリの作成に市民が大いに関わることができ、活用されれば作成した嬉しさからまた、参加者も増えるであろう。</p> <p>今後の情報提供には、紙媒体からデジタルが当然となりまた、オープン</p>		

データの活用が増となることであろう。理解し創りあげていくための情報入手や業務量の増加が悩ましいところである。しかし、情報を入力したい人には、大変便利で活用は増加し続けるので、調布市においても斬新な情報提供を工夫して行いたい。

(2) 「女性職員活躍制度について」

・まだまだ女性の役割分業は、減っていないと感じるが女性が活躍するためには、女性の家庭での役割分業の改革と職場でのイメージ変革や制度の支援が必要である。その改革が行われ効果をあげているのが北九州市で行われているイクボス養成や働き方改革である。女性役職者比率を上げるにはどのように支援するかということから、育児支援など積極的に行いワークライフバランスを推進。そしてイクボス養成にも強化。イクボス実践制度をボーナスに反映することや部下が上司を評価する取組みなどの多面評価制度は、大変、素晴らしい。以前までの日本企業における人事評価制度等は、上司からの評価が使用者の評価結果となり年収となっていた。このことにより正しい評価がなされなかったことも感じる。しかしこの多面評価制度により住民をまもる使命感を持ち業務に就いている職員が、職場での相乗効果があり風通しの良い働き方となる環境ができるようになると思うところである。また全国初という女性の「はたらく」をワンストップでサポートする国、県、市、の連携施設「ウーマンワークカフェ北九州」があり就業支援や創業サポート、保育サービスに関する情報提供などさまざまなサービスをワンストップで提供している。ワンストップで安心のできる持続して就労できる環境の支援は、心の支援にもつながる。心身ともに安心でき親子が、心穏やかに育つ環境になると感じる。調布市においても子育て支援や学習支援など子育てに関することに対しても充実しているが子育て世代が安心出きるような働き方改革をより一層すすめていかなければならない。

(3) 「熊本地震後における防災・災害対策等の取組み及び AI による働き方改革について」

・震度 7、気象庁の観測史上初めてという地震が 2 度も発生したという状況は、この熊本城を見なければ分からないというほど損傷が激しかった。

震災災害の大切な資料からは、言葉を失った。熊本城以外は、復興に力を合わせた結果であり町は、活気溢れる勢いを見せている。その復興に大変、尽力されたことがわかる。どの災害地に行っても感じるがやはり「経験にまさるものは、ない」のである。訓練は、大事であり備えにつながるが実際に経験したことから他自治体への指導は、実践に役立つ。自助ということも考え勉強しておきたいところである。また、地震の発生時間帯によっては人的被害に差がでてくるということである。日中にこの地震が発生し熊本城観光中に人的被害がでていたならば熊本城の再建には、至れなかつただろうと思う。災害時には、連絡を取る困難に見舞われる。このことからマイクロソフト社が情報共有基盤と自社デバイスを提案し熊本市が活用し地震発生直後の困難を克服したのである。また、「クラウドソリューションを活用した働き方改革基盤構築プロジェクト」が進められている。働くものが遠隔地にいながら操作ができることや、また住民も同じように遠隔から情報を得られることが利点である。現場に行かず対応ができれば労力も減るのであり、今後もさまざまなことに利用できるように考えていきたい。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

1. 視覚障がい者の方への情報提供としては、ほとんどが紙媒体から得ていると思うが、今後ますます情報提供をどのようにするのか、情報をどのように得ているのかという多くの声から調査しなければならない。パソコンの利用も増え活用されている。パソコンやスマートフォンへ希望者へ定期的に情報を提供するなども考えていきたい。
2. 女性の働き方、支援がなかなか進まないこともあることから小さなことでも制度をつくるためにも多くの意見交換からはじめていきたい。
3. 自助、共助が重要であり日頃から地域ごとのコミュニティを大切にする努力が必要である。今後も地域の輪を広げ「おせっかい」や「おたがいさま」を日常化したいものである。

第2号様式(第3関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	林 明裕
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
総務委員会行政視察報告		
<p>2 視察先</p> <p>○山口県宇部市議会 「オープンデータの活用について」</p> <p>○北九州市議会 「女性職員活躍支援について」</p>		
<p>○平成30年10月29日（月）</p> <p>正午過ぎ山口宇部空港着。昼食後、宇部市議会にて行政視察に臨む。調査事項は「オープンデータの活用について」で、総合戦略局 ICT・地域イノベーション推進グループの職員から説明を受けた。宇部市では平成25年度からオープンデータに関する調査・検討を開始、翌26年度には、オープンデータの公開を開始した。現在までに3回オープンデータコンテストを開催し官民協働での活用を図っている。オープンデータの推進にあたっては、重点分野を整理し、その基準を定めた運用指針、および定義を設けているが、その成果は、ごみ収集に関する情報表示、赤ちゃんのお出かけサポートスポット表示等多岐に渡っており、ICT人材の育成にも一役買っている。全国的な人口減少、少子高齢化の進展、自治体の財政悪化が懸念される中、国、自治体等が保有する公共データのオープンデータ化と利活用は、地域課題の解決や行政効率化、官民協働に繋がるものと大きく期待されている。これらのことから、全国の自治体においては、オープンデータの活用は必須であり、幅広い利活用を図っていくことが求められていることが宇部市の例からもよく理解できた。鉄路移動、小倉泊。</p> <p>○平成30年10月30日（火）</p> <p>午前10時より北九州市役所にて「女性職員活躍支援について」をテーマとした行政視察に臨む。総務局女性の輝く社会推進女性活躍推進課の職員から説明を受ける。本施策は市長公約により強力に推し進められており、意欲・能力のある女性職員が活躍できる職場の実現、そ</p>		

第2号様式(第3関係)

して「女性活躍推進アクションプラン」の策定、実行を目的としている。市長を本部長とした推進本部を編成し、①人材育成・登用②組織風土改革③支援体制の確立という具体的なプランを実践すべく、人事部に専門の課を新設する等力の入り方がわかった。成果については数字を見れば一目瞭然で、女性役職者比率は、平成20年度が12.1%から平成30年度現在は18.6%、女性の係長試験の受験率は33.1%から53.7%へと大きく伸びていることがわかった。市長が先頭に立ち進めているこの女性活躍支援については、着実な成果を上げており、このことが女性のキャリア形成の支援、男性職員も含めた働き方改革、制度の見直し、組織風土改革、そして仕事と家庭の両立へと繋がっていくものと改めて確信した。全国どの自治体においても参考とする点が多いが、特筆すべきは、優れたリーダーシップの下ならではの成功例と言えるだろう。翌日の公務の為一足先に帰京。

(今後の課題・調査研究すべきテーマ等)

少子高齢化が進み、財政的にも厳しい経営を求められていく地方自治体においては、オープンデータ等をフル活用した上での人工知能(AI)、ICTの積極的導入は、これからの自治体における行財政改革の要となるだろう。一方、優秀な女性職員の活躍できる環境づくりは人材を育て活かす重要な施策といえるだろう。しかし宇部市、北九州市の共通したところは、市長の優れたリーダーシップにより推し進められているとの印象が強く感じられた。今後の政策づくりにしっかりと活かせるよう更に研究していきたい。

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田 絵美
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
宇部市 オープンデータの活用について		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>COG（チャレンジ・オープン・ガバナンス）を掲げ、オープンデータカタログサイトを BODIK ODCS に移行。「無料で（これが重要）」九州の市町とともに、九州・山口地方にはオープンデータから地域をなくすという目的で教育機関、企業等と連携し、協働によるアプリ開発を開始した。</p> <p>宇部市は、総合戦略局 ICT・地域イノベーション推進グループという部署を設置し、まずは庁内の意識改革から始めた。市長の牽引力で、まずはこれが一丁目一番地と、力をいれてきたという。また、これまでの取り組みを段階的に、職員の皆さんが努力を積み重ねて、今では近隣の自治体を巻き込んで進んできた。</p> <p>オープンデータの定義は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○誰でも自由に使える。 ○二次利用が可能なルール（営利目的も含めて、自由に加工・公開可能） ○機械判読に適したデータ形式（コンピューターで処理しやすい形式（CSV/XML 等）であり、守る物をしっかりと守ることで、誰でも参加でき、共有できるものとなる。市民参加の課題とも言える。オープンデータの利活用で、市民が元気になり、町が元気になることを目指していく。地域課題や地域作りの課題を解決に向けていく。 <p>市内企業、大学、高専、高校、なかには中学生から、興味があれば誰でも参加できるアプリコンテストも、第四回目を迎え、アイデアや技術を発揮する機会を作っている。その他オープンデータ アプリコンテストとその様子、さらにはオープンデータの成果等の事例紹介、作品例学ぶものがたくさんあった。</p>		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
<p>今年のコンテスト締め切りは11月30日。技術があればエントリーしたかった!?</p> <p>アプリコンテストや研修・授業等でオープンデータが活用できるアプリ開発に取り組むことで、アプリ開発や ICT・データの活用ができる人材が育つ。RPA・AI、IC・IOT を考える。（データ→人材育成）</p> <p>経産省、RESAS を活用した分析、職員の遠隔会議等、様々な発展のチャンスがあると考えられる。ただ、データを集めて、正しく活用できなければ意味がないだけでなく正しい分析に繋がらない。職員の研鑽が最も必要である。</p>		

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田 絵美
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
北九州市 女性職員活躍支援について		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>市長公約</p> <ul style="list-style-type: none"> ○審議会等において女性委員の比率を3年以内に50%に ○女性の就業・キャリアアップ・再就職をトータルでワンストップでサポート「女性活躍推進センター」設立。「女性活躍推進課」を新設。 ○市役所女性役職者30年に20%さらに30%へ。 ○育児支援、ワークライフバランス推進、イクボス養成 ○配偶者の転勤先での再就職の相互受け入れ態勢を政令指定都市間・中核市間で検討。 <p>その後、市初の女性副市長誕生、「女性活躍推進！本部」設置、「人事部人材育成・女性活躍推進課」設置「女性活躍推進アクションプラン」策定、同第2期計画スタートなど、10年間で大きく取り組んできた。</p> <p>ワークライフバランスでは、ありがちな「ワークを減」という手法ではなく、ワークもライフもともに充実を目指す。AP（アクションプラン）以前は女性の管理職試験受験率は男性の半分、女性の合格率は男性の半分以下というのが現状。女性のヒアリングを重点にし、「3つの視点」を重視して取り組む。《○政策（意思）決定レベルに女性がいないと、多様性のメリットがない ○経験と上司の指導等育て方の男女格差是正に重点 ○様々な生活背景を持つ職員が能力を発揮しやすい職場環境（組織風土）づくり。》</p> <p>職員のヒアリングやメンター制度、キャリア形成支援、男性の育児休暇取得、また、昇任試験に対し職員の育児期間の考慮などでは、調布もおこなってきていることであるが、まだ進んでいないと違いを感じたところは、マスコミオープンで取組事例を公表・発信。子ども参観日を設置し、子どもが親の働く姿を見て、家庭でのふれあいやコミュニケーション促進を図る、全管理職がイクボス宣言を行い、「業績目標」の1つに「イクボス実践」を必須設定、働き方見直し実践として、コンサルタントの支援による職場単位の仕事見直しといった取組である。これらは参考にできることであり、発信することでモチベーションが高まる事もある。</p> <p>こうした努力の積み上げから、WLBの推進に繋がり、女性職員の活躍、ひいては現在も職員定数が減っているのに市民が増え続けているという現状の中、効果効率的な人員体制と職員のスキルアップ、職員全員が活躍できる組織作り、一人一人がキープレイヤーとなる管理職のレベルアップ。そして簡素で効率の良い、少数精鋭のもと、職員の意欲と能力を最大限発揮することにより持続可能な市政運営に繋がっていくものと感じた。</p>		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
前項目、本文中に記載		

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田 絵美
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
熊本市 熊本地震における防災・災害対策等の取り組み		
2 実施結果に対する所感、意見等 （質疑・意見交換した内容、今後の市政に生かすべき点等）		
<p>平成28年（2016年）4月14日（余震）、16日（本震）、震度7が2回、6以上が7回と、前代未聞の大規模な震災が起こった。台風対策のため、重たい瓦を使う家が多くそれが被害を大きくした原因となった。また、マンションではピロティーといわれる、1階に空間のあるタイプがつぶれてしまったというケースが多かった。断水32万戸（全戸）74万市民で、110750人が避難所へ、その他公園等への避難を含めると20万人以上だろうと言われている。避難所生活は34,1%、その他は65,9%。一度避難後に車中泊等ですごした人。</p> <p>阪神淡路大震災を受け、災害計画を作った、また、東日本大震災の状況も参考に、見直しを行ったにも関わらず、実際に被災すると全てが機能しないことが浮き彫りとなった。</p> <p>マニュアルは機能せず、安否は不明、参集の把握ができず。殺到する電話対応に忙殺され、職員と地域の連携ができず。体育館は25/136が使えず、一ヶ所に集中し、2000人超の避難所もあった。グラウンドや空き地、公園等、避難者の状況がわからず。市民は「お客様」状態。物資配給に並べない人（高齢者や障害者）、外国人の対応ができず、乳幼児や母子、女性への配慮ができなかった。議会对応は、全員に電話を入れ、全員と連絡が取れたのが丸2日後。タブレット、LINEが有効であった。</p> <p>そんな中でも、市長のツイッターが有効だったと市民の声。次第に民間企業やノウハウが入ってきて、学校再開が5/9に可能になった。</p> <p>民間の手法を活用したフォークリフトを使つての倉庫整理、管理。家屋調査。ボランティアのマネジメント。図上計画だけでない地域防災計画。ペットのルール化とアレルギー対応が必要なこと。また罹災計画は地域等によって方式が違うことを知った。（阪神方式、東日本方式。）飛び交うデマ。民間との連携（配送業者・LINE等SNS、スーパーやコンビニ）備蓄物資供給計画。貯水機能。体育館へのエアコン設置。実働訓練と、できればブラインドでの抜き打ち訓練。課題がたくさんあることを再認識した。</p>		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
<p>図上での計画には限界があることがよくわかった。熊本市さんの、課題が多く見つかったという経験を惜しげもなく、「是非生かしていただきたい」と、失敗談を教えて下さった事に感謝しながら、やはり、きれい事ではすまされない現実をどのように考えていくのか、貴重な経験談からも学ぶことは何かを整理し、○いち早い職員間、さらに議員の情報共有、○女性の視点 ○罹災証明のシステム ○物資受け入れ体制と拠点を増やし、整理していくノウハウを得る事 ○受援計画 ○防災士の育成 ○BCP見直し ○受援計画が重要と言うことは新たな理解であった。さらには、これら以外でも幾つか伺った細かなアイデアを、実際に計画等に入れて行かなくてはならないし、やはり実動訓練では一番大変であろう要援護の方々にも、加わっていただく必要はあり、意味もあることと思う。自分たちの失敗を惜しげもなく伝えていただき、参考にして良いものを作って欲しいという助言は身に染みた。熊本市の皆さんの勇気と懐の広さに感謝しつつ、「大変有意義な研修であった」と心からの感謝をここで改めて申し上げたい。</p>		

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田 絵美
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
熊本市 AIによる働き方改革について		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>熊本市とマイクロソフト社は、熊本地震をきっかけに、市内 260 ヶ所以上あった避難所と物資拠点、市役所間の情報共有と円滑な処理、対応を行うための支援として、マイクロソフト社の統合型情報共有クラウドサービスなどを熊本市に提供し、NPO 法人、パートナー企業等と連携をし、「くまもと R ねっと」を構築するとともに、東日本大震災でのノウハウを提供するなどの支援を行った。熊本市もそれらを活用することで、行政の ICT をクラウド上に構築することの重要性・有効性を認識し、さらに災害に強い ICT 基盤をクラウドソリューションで構築。新しい熊本市の創造に取り組む。「デジタルトランスフォーメーション」Office365 を導入し、働き方改革（会議・着席の可否・チャットでの参加等）、をはじめペーパーレス化の推進等を行う。</p> <p>作業の迅速化により、市民満足度のアップに繋がる職員提案は必ず実現するという強い意志を持って取り組む。公聴・窓口の充実や地域主義、人づくりに取り組む。AI チャットボットによる自動応答サービス（熊本コールセンターの電話対応を AI によるチャットボットへ）WEB 通信・聴覚障害者対応や外国人対応に WEB カメラを使って手話や通訳などのサービスを行う。</p> <p>職員の生産性向上により、市民に向き合う時間が増える。移動のための交通費が削減・職員や教員の働き方の社会問題に貢献し改革に繋がる。また、データの持ち出しはクラウド化によって紛失が無くなる。</p> <p>生産性は「生産性分析ツール My Analytics」によりメールで気づき改善に繋がっている。場所も選ばず、WEB 会議では会議室の確保も必要ない。区長会議の交通費負担 0、出張中の市長とも会議可能。緊急時の素早い対応も可能。応用にも期待。</p> <p>ここまで来るには、担当職員の努力と熱意が大きく、聞いていても熱量が伝わってくる。さらには、他の一般職員も、応えようとする努力があつてこそその実現だと感じた。</p> <p>動かなければ何も変わらない。必要であり、効果が高いと信じてこれまで到達してきた職員の皆さん方の努力を見習いたい。今後はそう遠くない時代に社会全体が進んでくだろう情報化社会に、アナログ世代もついて行ける努力が必要である。「サイバー攻撃に一番強いのはアナログ」だなどと言っている時代ではなく、効率的で満足度の高い市民サービスを第 1 に掲げていくべきであろう。</p>		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
前項目 本文中に記載		